

「徳島県西部圏域振興計画(第4期)」のR3年度に向けた見直し(案)について



3つの国難

新型コロナウイルス感染症	人口減少	災害列島
主な課題 ○インバウンドの消滅 ○体験型教育旅行の激減 これまでの主な対応 ○海外オンラインプロモーションの実施 ○新型コロナウイルス対応ガイドラインを策定し、いち早く衛生備品整備や衛生研修実施	主な課題 ○都市部への人口集中 ○地域産業の担い手・後継者不足 これまでの主な対応 ○市町・民間一体のワーケーション推進 ○就農・移住をトータルでサポートする にし阿波・就農移住応援隊 を発足	主な課題 ○激甚化する自然災害 ○発災時の迅速かつ適切な対応 これまでの主な対応 ○美馬庁舎を改修し、地域防災拠点強化 ○市町と連携し、西部防災館を活用した物流訓練や図上訓練を実施

◆R3年度以降は“WITHコロナからアフターコロナ”を俯瞰し、「新しい価値観」への対応・進化へ

1 見直しの方針

◆委員からの意見・提言の反映

地域政策総合会議・計画推進評価部会などを踏まえ見直し

◆新型コロナウイルス感染症の対応や、新たな政策課題を踏まえて見直し

「3つの国難」打破に向けた積極的な取り組み

「デジタル社会」、「グリーン社会」の実現を重点テーマに

◆これまでの取り組みを深化・発展させ、「地方回帰の機運」を確実に取り込む

「にし阿波」ならではの強みとフィールドを活用して、一歩先の未来を見据えた、果敢なチャレンジ



<ワーケーション>

2 主な見直し点

(1) 既存の数値目標を廃止する項目

- 外国人延べ宿泊者数
- 圏域内での外国人平均宿泊日数

(2) 新たな生活様式を踏まえハイブリッドさせる項目

① リアルとオンラインとの併用

◆ BtoBの取組みとして、アフターコロナを見据え、海外の旅行会社、メディア等へのリアルとオンラインを活用したプロモーション・商談会を展開

②15回

◆ 就農希望者に対し「にし阿波就農・移住応援隊」によるオンライン等を活用した支援

②1～②2年間5人以上

◆ 農林産物等の海外輸出に向けたオンライン等を活用した商談会を展開

②1～②2年間3回以上

② 新しい生活様式の導入

◆ 「スマートライフ宣言」等感染対策を観光事業者等へ拡充

②300事業者

◆ 観光事業者やとくしま農林漁家民宿経営者等への衛生研修を実施

各 ②1～②2年間3回以上

(3) ニューノーマル仕様はじめ全く新たな手法で推進する項目

① デジタル社会への適応

◆ BtoCの取組みとして、オンラインやSNS等を活用し、外国人に対し、にし阿波の情報を効果的に直接発信

②17,000人

◆ 観光におけるデジタル技術の導入促進の顕彰制度を創設

②1創設

② グリーン社会への適応

● あわ産LED道路照明灯の設置を推進

②820基 → ②1,030基(上方修正)

◆ 「フードバンク・にし阿波」を開設

②1開設

● 次代につながる「木育」普及活動を充実

②8回 → ②12回(上方修正)

③ 新次元の分散型国土の創出

◆ 国内外企業のワーケーション等を推進

②15社

◆ 移住者の定住に向けた地元企業への就職や起業を支援

②年間20人以上

◆ にし阿波型農福連携による6次化商品の開発を推進

②4件

< R3目標の状況 >

全目標数 (再掲を除く。)	170
新規	19
上方修正	15
下方修正	2
内容追加	13
↓	
3つの国難	項目数 (重複あり)
①コロナ対策	30
②人口減少	105
③災害列島	89
うち「デジタル」	34
「グリーン」	34

「徳島・にし阿波」の認知度向上とフィールドを活かした地域づくりを推進